

まえがき

東京女子大学学長 小野祥子

一九九八年九月、東京女子大学は丸山眞男先生のご遺族より、先生の旧蔵書・ノート・草稿類のご寄贈をいただきました。以後、本学は、それらの貴重な書籍・資料を「丸山眞男文庫」として大切に守るとともに、丸山眞男記念比較思想研究センターを設け、その調査・公開・研究に当たって参りました。学術的に厳密な調査を進め、その成果を可能な限りすみやかに公開すべく、努力して参りました。その過程で、丸山眞男文庫所蔵資料の価値が当初の見通しよりはるかに大きいものであるということが、次第に明らかになって来ました。膨大な資料の一点一点を調査して行く過程で、それらが社会科学、人文科学の広汎な世界に、重大な貢献をし得るものであることが認識されるようになりました。

このため本学では、「平成24年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」が公募されました時に、丸山眞男文庫の全面的な公開とその活用を目指してプロジェクトを立ち上げ、文部科学省の公募に応じることを決めました。それが、「20世紀日本における知識人と教養―丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用―」研究プロジェクトでした。それは文部科学省から採用され、それ以来五年間、

プロジェクトに参加された学内外の研究者の方々の努力と、本プロジェクトを見守り支えていただいた皆様のご支援、さらにはその成果を活用していただいた皆様のお力により、当初の目標を一つ一つ達成して参りました。何よりも、草稿類デジタルアーカイブの構築により、丸山文庫資料の基本的部分を全面公開することができました。また、バーチャル書庫を立ち上げ、丸山先生の書斎の様子、そこから推測される先生のご関心のあり方が分かるようにいたしました。また、それをデジタルアーカイブと関連づけ、丸山先生の書斎等と、資料とを多様な仕方で活用できるようにいたしました。

さらにこの五年間、数多くの研究会、公開研究会、講演会、シンポジウムを積み重ね、丸山文庫所蔵資料を踏まえて、二〇世紀知識人の国際的交流の調査、本学初代学長新渡戸稲造先生にはじまる南原繁先生・丸山眞男先生の知的系譜の探究、二〇世紀を中心とした教養観の研究等を進めて参りました。その間、貴重な新発見資料を毎年『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』に発表しております。また資料の性格を判断し、他の出版社のお力を借りて出版したものも多数にのぼっています。一方、本事業に参加されていない方々からも、丸山文

庫の資料を踏まえたご研究、ご著書が多数発表され、それらは既に大きな社会的反響を呼び起こしております。

本プロジェクトが進められてきた五年の間に、丸山眞男をめぐる研究状況も大きく変化してきました。二〇一四年三月二日の生誕一〇〇周年、二〇一六年八月一日の没後二〇周年という節目によって多くの研究書・関連書が世に現われたというだけでなく、本プロジェクトの成果が、丸山眞男の思想・学問を研究される諸方面の方々からご評価をいただき、それを一つの成果としてご活用いただいた結果でもあったと自負しております。

既に申し上げました通り、プロジェクトに従事された本学教員、他大学・教育研究機関の先生方、特任研究員、非常勤研究補助スタッフの皆様のお力により、また「丸山文庫協力の会」の先生方のご支援により、丸山先生の残されたノート、草稿、図書への書き込み、メモ類等がデジタル化され、公開されております。その数は、ノート・草稿類が約五〇〇〇点、図書・雑誌は約三万六〇〇〇冊にのぼる膨大なものです。プロジェクトでは、その資料を活用して、丸山先生を中心とした二〇世紀知識人のネットワーク、教養のあり方についての研究を進めて参りました。こうした作業・研究の積み重ねにより、次第に、世界大の視野を持つ「新しい丸山眞男像」が明らかになってきつてきます。このような本プロジェクトの意義は、今後一層明らかになって行くものと考えております。

本プロジェクトの完結を迎えます今、本学としては、この成果報告

集を刊行し、この五年間の意義深い成果を社会に還元いたしますとともに、気持ちを新たに、丸山文庫を守り、日本のみならず世界的な研究に貢献する社会的責任を果たす所存です。

二〇一七年二月二〇日